



議会だより



とのしよ

No.51

contents

- 町議会の動き(12月定例会) … 2~4P
- 常任委員会の活動 …… 4~5P
- 特別委員会の活動 …… 5~7P
- 一般質問 …… 8~10P
- 議会日誌・編集後記 …… 10P



平成25年
2月5日発行 / 第51号



湊崎老人大学『生き生き健康体操』のようす
(1/8 湊崎公民館)

12月定例会 ★町議会の動き★ 《こんなことが決まりました》

平成24年度補正予算内訳

(単位：千円)

会計名	補正額	補正後	説明
一般会計	18,400 (専決)	6,797,844	主な事業 ●衆議院議員選挙費 18,400
	△99,276		●漁港建設費(唐櫃・田井漁港) 14,459 ●町道新設改良事業 7,975 ●職員給与費など △96,947
特別会計	国民健康保険事業 6,563	2,026,488	●保険給付 (高額療養・出産育児一時金)など
	介護保険事業 1,291	1,547,010	●介護予防住宅改修事業 1,165

12月定例会は12月19日に開かれ、専決(補正予算)1件と平成24年度補正予算3件、条例関係3件、その他2件、人事案件1件、また議員発議による条例関係2件、平成23年度決算認定などを審議し、原案どおり可決しました。

◆条例関係の主な議決◆

防災行政無線の設置および管理運営に関する条例の一部改正

大鐺公民館と大部公民館の移転と防災行政無線操作卓の更新に伴う設置場所の変更によるもの

税条例の一部改正
4ページに掲載

土庄中央病院使用料、手数料条例の一部を改正

診察券の再交付 105円
総合医療情報システム(電子カルテ)導入に伴うもの

議員発議による改正

土庄町議会委員会条例の一部改正

地方自治法の改正に伴い委員の選任などに関する事項が条例に委任されたことに伴うもの

土庄町議会会議規則の一部改正について

公聴会の開催と参考人の招致が行えるようになることからこれらの手続きについて規則を整備。

◆その他◆

辺地にかかる総合整備計画の変更

公共的施設整備のための財政上の特別措置などに関するもの(馬越空地見目線改良事業・超高速ブロードバンド整備促進事業)

土地開発公社定款の一部を変更

監事の職務について規定するため。

◆人事案件◆

◆人権擁護委員候補者の推薦
土庄町大部
久保博史氏
(適任)

平成23年度 一般会計、特別会計歳入歳出決算および公営企業会計決算の認定について

賛成多数で認定

の引き下げ、窓口負担の軽減を図るべき。

反対討論

◆福本議員
◆一般会計◆
・同和行政について

特定団体の活動費や事務費の助成制度は廃止すべき。隣保館への補助事業は見直すべき。扶助費の支給は、逆差別を助長し、同和問題解決の障害となっている。廃止すべき。
・地域医療と医療保険について
医師確保をはじめ、問題が山積した今、新病院建設が先行している。小豆医療組合への負担金計上の見直し、また、後期高齢者医療保険事業への拠出も見直すべき。

賛成討論

山本議員

財政状況が大変厳しい中、それぞれの事業の成果を見ると努力の跡が数多く見られるので、決算の認定を承認する。

◆国民健康保険事業特別会計◆

継続的な国保の運営を可能とするために、国保税

決算特別委員会報告

町長から

財政調整基金の積み立てが、現時点で16億1千5百万円余りになってい。25年度から大きな予算が使われるので、今後も努力を続けたい。

監査委員から

職員は目いっぱい努力をされているが、財政は崖っぷちにあつて、非常に厳しい状況にある。

病院の統合問題も含め、チエック機関である議会の皆さんの一層の研究と努力をお願いしたい。

副町長から

主要施策の成果説明書に基づいて、町全体の施策の成果、財政の状況について説明があつた。

一般会計は72億1千万円、特別会計は42億で行財政運営を行い、特筆すべきことは、歳入決算で地方債の構成比が10.9%になり、昨年より2億3千万円増加した。

◆主な審議事項◆

議会事務局 全員一致

23年6月から議員年金が廃止になり、共済組合負担金が増額。

出納室 全員一致

総務課 全員一致

公用車の購入、庁舎空調設備の改修。防災無線の修繕。

委員から

庁舎の修繕・清掃をきちんとし、気持ちがよく庁舎にして欲しい。

商工観光課 全員一致

小豆島の観光客の入り込み数は、前年度比49%減となっている。

委員から

瀬戸内国際こども映画祭の事業内容についての質問、ターゲット馬拉ソンの開催期日の変更を検討してはどうか。

税務課 全員一致

債権管理室の設置、税の徴収体制、収入未済額について。

委員から

国保税の滞納と収納率の向上対策は。

農林水産課 全員一致

地籍調査事業が平成24年度で終了。

委員から

溜池ハザードマップの作製、緑の分権改革調査事業の取組、オリブ牛の振興、農林水産業の振興

福祉課

有害鳥獣被害防止対策事業費は足りているのか。漁港の高潮対策は余り進んでいないと思うが計画はあるのか。

福祉課

承認5・非承認1で承認一般会計歳出決算で福祉課所管部分は、約13億4千万円、全体の19.5%。

委員から

国保特別会計決算額の内、保険給付費は前年度比7%増の13億5千万円。介護保険の保険給付費も6.5%増の14億円弱。

委員から

国民健康保険の特定健診の受診率が低いことの対策と病院に行きやすい体制づくりを。

健康増進課 全員一致

離島救急輸送事業、がん検診事業、地域自殺対策緊急強化基金事業、介護保険事業、香川県下特定健診・がん検診実施状況など。

委員から

小豆島准看護学院助成事業で毎年どれくらいの効果があるのか。

企画課 全員一致

債権管理室の設置、定数内職員を3名減、東日本大震災被災地に支援職員を派遣、移住者への助成。ふるさと納税が19件149万1千円。

委員から

職員と地域が密接にかかわれるのは地域活性化支援事業であり、積極的に実施してもらいたい。

委員から

職員の地域が密接にかかわれるのは地域活性化支援事業であり、積極的に実施してもらいたい。

委員から

合併浄化槽設置補助、し尿収集の民間委託4地区。

委員から

し尿収集の委託により町の費用は減少したのか、委託によるサービス低下の懸念。

人権対策課

承認5・非承認1で承認小海浜住宅の建て替え工事が完了。

委員から

小海浜住宅の次の建て替え計画はどこか、今後ずっと続くのか。就職支度金・奨学資金など行政の取り組みが逆に差別を生んでいるのでは。

建設課 全員一致

緊急雇用創出基金事業で町道の草刈りと側溝の堆積物の除去、民間住宅耐震対策支援事業など。

委員から

都市計画審議会と景観審議会の違い、港湾整備事業特別会計・宅地造成事業特別会計の繰上げ充用と王子前の宅地は何筆残っているのか。また値下げをして売れないのか。

委員から

奨学資金貸付事業は、大学生13名、高校生1名に貸し付け、緊急地震速報の受信機を保育所・幼稚園・小中学校に設置、新小学校の用地購入。

委員から

奨学資金貸付事業は、大学生13名、高校生1名に貸し付け、緊急地震速報の受信機を保育所・幼稚園・小中学校に設置、新小学校の用地購入。

委員から

奨学資金貸付事業は、大学生13名、高校生1名に貸し付け、緊急地震速報の受信機を保育所・幼稚園・小中学校に設置、新小学校の用地購入。

委員から

スクールバスの大きさと乗車人数など運行方法。教育の向上や給食の異物混入についての議論はどこでやっているのか。

委員から

旧大鐸小学校校舎改修事業、大部公民館建設事業が完了。町民参加型の生涯学習活動と県内外の人たちとの生涯学習活動。

委員から

文化財保護委員は何人いるのか、文化財のマップ的なものがあれば良いのではないか。放課後子ども教室の利用回数と児童数は。

委員から

文化財保護委員は何人いるのか、文化財のマップ的なものがあれば良いのではないか。放課後子ども教室の利用回数と児童数は。

委員から

文化財保護委員は何人いるのか、文化財のマップ的なものがあれば良いのではないか。放課後子ども教室の利用回数と児童数は。

委員から

文化財保護委員は何人いるのか、文化財のマップ的なものがあれば良いのではないか。放課後子ども教室の利用回数と児童数は。

委員から

文化財保護委員は何人いるのか、文化財のマップ的なものがあれば良いのではないか。放課後子ども教室の利用回数と児童数は。

中央病院 全員一致

前年度より77,287,868円の減収、電子カルテの導入。

電子カルテは統合病院でも使用可能か、救急患者の対応はどうなっているのか、内海病院との統合で診療機器・借金はどのようになるのか。

当委員会の意見

○事業の実施にあたり、費用対効果を可能な範囲で出していたいただきたい。特に新規事業は、努力していただきたい。

○主要施策の成果説明書で、成果を数値で表わすことができるものは、できるだけ数値で出してもらいたい。

○各課で横の連絡を十分に取り、施策を進めていただきたい。

各委員会の活動

総務建設常任委員会

(11月26日・12月12日開会中)

企画課

「総合計画の策定状況について」

総合計画の素案が提示された。総合計画を構成する「基本構想」「基本計画」「実施計画」のうちの基本構想部分の説明があった。

計画の愛称を「きらめき創造プラン」とし、新しいまちづくりのために、①魅力あるまちづくり、②安心で快適なまちづくり、③支え合うまちづくりの基本理念の下、町民と行政が知恵を出し合い協働して取り組むことにより、将来像として「人・時を結び 自然とふれあう交流のまち」土庄町の実現をめざしていく。

また、昨年度実施した住民意識調査や高校生アンケート調査の結果も参考に、現在各課で基本施

建設課

「高潮対策工事の進捗状況について」

平成16年の高潮被害により、香川県は津波・高潮対策アクションプログラムを策定し、Ⅰ期からⅢ期に分けた整備方針を打ち出した。

県管理港湾のⅠ期計画延長のうち、未整備は53.8m・整備率98%である。町管理港湾のⅠ期計画延長のうち未整備は258m・整備率25%である。

【質疑応答】

《問》5つの町管理港湾のうちⅠ期計画延長の未整備箇所は。

《答》小瀬港、馬越港、北浦港の3港で26年度にむけて整備を進めたい。

12月12日開催の内容は、総務課より「消防庁舎の建設候補地」について提案があった。

税務課

「税条例の一部改正」

① たばこ税の税率を1000本につき644円引き上げる。(同額分、県たばこ税が引き下がる。)

② 退職所得に係る個人町民税の10%税額控除を廃止。

③ 個人住民税の税率の特例として、10年間均等割を年500円引き上げる。

【質疑応答】

《問》変更の時期は。

《答》① 25年度から
② 25年1月1日から
③ 26年度から

債権管理室

「業務内容について」

各課からの滞納債権がどのようにして債権管理室に引き継がれるか、また4月からの納付実績の提示があった。

【質疑応答】

《問》この計画に新病院が運営を始めて経営赤字が出た場合の金額が反映されていないので町の財政は相当厳しくなるのでは。

《答》地方債も増えることになり、事業の精査をして執行が延ばせるものは延ばすなど検討していきたい。

総務課

「中期財政計画について」

平成23年の計画では、

策を検討中であり、取りまとめた後には基本計画として位置づけられる。

さらに、現在行っている地域活性化支援事業は、10地区それぞれに概要と将来像を記載し、協働の町づくりを推進する「地域別推進計画」を今回新たな項目として掲げている。

【質疑応答】

《問》地域活性化支援事業とは、具体的にどのようなことか。

《答》地域の実情に応じて自分たちの地域は自分たちがつくるという住民参画を狙いとして進める事業である

《問》基本計画はいつ頃できるのか。

《答》2月下旬を予定している。



中央学校給食センター



小豆島老人ホーム

教育民生常任委員会

(11月30日 閉会中)

現地視察

・特別養護老人ホーム
「小豆島老人ホーム」お
りづぶ、「あづき」
・中央学校給食センター

福祉課

「乳幼児等医療費支給事業について」

平成23年度土庄町の支給支出状況、県内各市町の実施状況や中学校卒業まで助成範囲を拡大した場合の事業費見込みについての説明を受けた。

県内の市町では、小学校卒業まで助成をしているところ、小学校3年修了になるまでの助成、また入院費だけ助成しているところなどがある。

委員から

・わが町でも独自助成を前向きに検討して欲しい。
・わが町の財政状況をよく考え、十分協議していく必要があるのではないのか。
・町の財政状況から考えると実施が一番最後で良いのではないのか。

水道事業特別委員会

(11月16日閉会中)

まず最初に急を要する事業について報告があった。

8月上旬、水道水に藻臭がすると住民から苦情をうけ、肥土山浄水場の原水調整池に粉末活性炭を投入し対処した。

その後の簡易汚泥処理工程が原因で殿川に活性炭を含んだ汚泥が流出した。

このため、香川県小豆総合事務所の立ち入り調査と指導を受け、町は改善報告書を提出した。早急の対応として、機械式汚泥脱水機施設を今年度中に設置することとし、設計書作成のため、業務委託の入札を実施している。

肥土山浄水場更新工事の進捗状況

場内道路の工事について1工区…延長196.3m、2工区…176.7m、道路拡幅と場内造

成工事の発注が行われていると説明があった。

【質疑応答】

《問》以前落石があったが、今後の工事予定やその事業費、また場内道路の背後地はどのように処理するのか。

《答》今年度も県が落石防止のためワイヤーネットを張る工事を行う。また山が迫っているので場内道路の全線は、擁壁背後の約7m部分まで伐採する。

汚泥脱水機設置について

コンサルタントと協議している業務内容は、①機械式脱水施設詳細設計業務1.0式、②全体設計金額の再検討と土庄町景観条例に基づいて申請するための書類作成1.0式である。

機械式脱水の詳細が決まり次第、当委員会でも協議する予定である。

【質疑応答】

《問》機械式脱水機の台数や能力、改善報告書に

よる装置設置の約定期間は。

《答》コンサルタントが資料を集めている段階であり、県との約束が3月末までのため、いろいろなケースを考えて早急に進める。

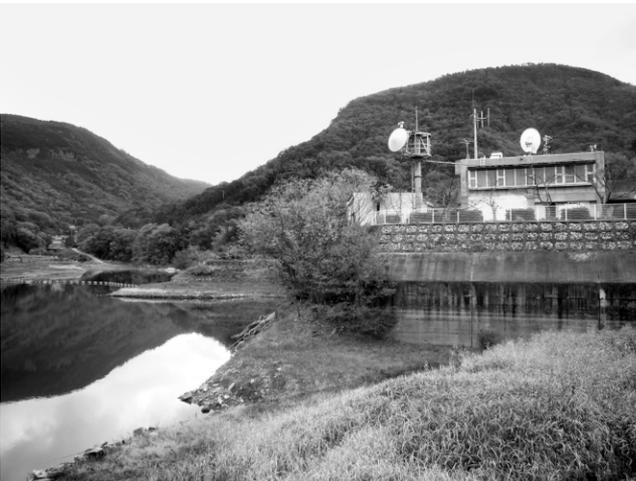
《問》殿川ダムに発生する「アオコ」による藻臭問題とこの浄水場の問題は、今後も異常気象や降水量が少ない時は繰り返し起こる。殿川ダムで根本的な解決をしない限り町が浄水場に対応しても改善しないのではな

いか。

《答》小豆島町とともに殿川ダムを管理している小豆総合事務所河川港湾課へ出向き、水質改善案として無酸素状態にならない方法を提示するなど、県の協力をお願いするとともに水質検査も継続して実施する。

現地視察

肥土山浄水場の工事進捗状況と殿川ダムの貯水状況などの確認をした。



殿川ダム

病院再編調査特別委員会

(12月4日 閉会中)

小豆新病院の基本計画

概要

◆全体計画

(1) 目指すべき病院像

・小豆島における公立病院の継続的な医療提供体制の確立。

・必要な医師数を確保し、診療レベルの向上を目指す。

・大部・豊島の巡回診療は継続して行う。

(2) 診療科

現在の病院、もしくは両方の病院が行っている診療科を維持したい。

(3) 病床数

新病院は248床の計画で74床の減

(4) 整備位置

現池田中学校と周辺を含む町有地で計画。

(5) 整備時期

着工は平成25年度内、現在は基本設計、来年度

に向けて実施設計を行い、平成28年春の竣工、開院を目指している。

◆部門別計画

外来部門、病棟部門、救急部門、健診部門など14の各部門別の計画について説明があった。

◆施設整備計画

整備方針や計画の規模、配置計画、設備計画の説明があった。

【質疑応答】

《問》通院の足、アクセスはどうなっているか。

《答》オリーブバスに説明方々相談に行く予定にはしている。具体的には決定はしていない。

《問》新設して経営がうまくいかなかった場合、土庄町の財政は破綻するのではないか。十分協議しないと、先に町民に負担を持つていくことになる。箱物を先行していいものだろうか。経営に対する試算表も何もできていない。その辺を先に協議するべきではないのか。

か。

《答》収支計画、経営計画の見込みは、審議いただけるよう現在検討しているところである。

《答》管理者が決まり次第、スピードアップしてもらおうようお願いしたい。

《問》ヘリポートは設けるのか。

《答》新病院から至近距離に許可を受けた離発着場(ふるさと村のグラウンド)があり、支障がないのではないかと。

《問》全国の公立病院の経営状態の資料を出してもらって、病院再編調査特別委員会としてはそれで土庄中央病院と内海病院と新病院、統合病院をやることになったら、今の中央病院をどうするかということも考えないといけないのでは。

《答》香川県自治体病院の経営状況、それと合わせた中での土庄、内海、香川県自治体病院経営状況を勉強していただき、土庄と内海の決算書の比

較をさせていただく。

《問》香川遠隔医療ネットワークの活用とは。

《答》略称でK・M・I・Xと呼ばれていて、例えば地域の医療機関がレントゲン撮影して画像診断する場合にその画像を大学の方に送り、そこで読影し診断に役立てる。

《問》外来駐車場は250台、職員の150台とこののは難しいと思うが。

《答》現在池田庁舎の職員駐車場がある。それ以外の周辺の土地で借入や購入など考えたい。

《問》医師がいなければ病院は経営が成り立たない。医師の確保の問題は、どうなっているのか。

《答》まだそこまで具体的にわからない。

《問》医師派遣の支援は、何故一つの病院だったら支援できるのか。

《答》同じような医療が近くにあり、非効率な面がある。

《問》土庄町は電子カルテを導入したが、新病院にも使えるのか。

《答》それは未定である。調査をしたい。

《問》先生方を招聘するにあたり生活環境を充実させるため、病院の近くに宿舎を建てる考えはないのか。

《答》まだ具体的に詰めていない。

委員から

新病院の事業計画のシミュレーションも提出してもらい十分審議しないとけない。



新小学校調査特別委員会

(10月10日閉会中)

津波の高さの公表に伴う護岸の高さの検討

国より、発生しうる最大クラス的地震、津波の高さが発表された。これに伴い津波対策の護岸の高さを4.8mから4.1mに変更したい。さらにこの石積みみの護岸は、財政状況や周辺の景観を考慮し、塩田の水路に使用されていた石を再利用したいとの事であった。

プールについて

授業時間は、小学校、中学校ともに概ね月12時間が必要である。基本的には一度に2クラスが大プールを使用するが、学年全体の合同体育の授業を設けるなど、工夫すれば授業時間を満たすことは可能である。

またプールの位置は、敷地の一部が土砂災害警戒区域となっていることや子どもたちの避難通路

の確保などの観点から、南北に配置を変えたいとの説明があった。

【質疑応答】

《問》5コースでやりくりできるかどうか調査はしたのか。

《答》5コースは1クラスの子どもしか利用できないが、7コースでは2クラスが同時に利用できるので、利便性が高く授業時間がとりやすい。

《問》小学校に意見を聞いたのか。

《答》小学校・中学校の学校訪問などで聞いても、現実的には5コースではちょっと厳しいとの意見を聞いている。

委員会では

5000人規模の新設小学校では、7コースでも少ないのではないかとの意見もだが、7コースで承認することにした。

町内業者への発注について

今回の新小学校の工事

について、「分離発注で地元への指名競争入札参加の配慮をいただきたい」という陳情があった。

執行部は、校舎・体育館などの本体建設工事は、一般競争入札で、プール・屋外倉庫などの建設は、分離して地元への指名競争で発注できるようにする。

また校舎以外の外構工事部分は、工区を分けて地元土木業者へ発注をしたいとの説明があった。

【質疑応答】

《問》本体工事は地元ではできないのか。

《答》工事が1億円以上のもは一般競争入札になる。全体の規模が大きいののでそうせざるを得ない。

《問》体育館に空調は入るのか。

《答》入らない。

委員会から

基本的に地元の業者を使うことを検討課題として出来るだけ工夫して欲しいと要望をした。

観光振興特別委員会

(12月4日閉会中)

観光資源の掘り起こし

高見山・重岩を現地視察、旧戸形小学校内の公民館で委員会を開催した。

委員から

高見山では、アートを飾れる場所の提供、ハイキングコースにアート作品を点在させる案。また、赤松柳史さん一門の句碑などを配置、散策させ、尾崎放哉と連動させた文学ゾーンとアートゾーンとして有効に使う案。

アーティストを芸術祭の合間に募集して土庄町独自に展示する案。

高見山を核として重岩と戸形小学校を一つの観光施設として捕らえる案。

また千軒・小瀬でも石が切り出された。北海岸のように、周辺の景色を描いた石の絵手紙があったらいいという案など、様々な意見が出された。

これらについて執行部に検討をお願いした。

フェリー問題について

誘客にあたり、小豆島を観光立町としていくなら、その中の海上交通網をどうするか、ホテル・旅館の救済をどうするか。

観光資源の開発、交通機関の整備、それをうまく誘導する対外宣伝も必要。両町あわせた形で実施しなければならぬのではないかと。

航路がたくさんあればあるほど来やすい島というのは間違いない。

公設民営で船をやる場合、波及効果は十分にあってではないか。既存の船会社とは一線を画した形でやれば、また、その航路の特性を生かした運営がやっつけけるのではないかと。それには事業計画、航路、経営形態、現在の往来状況、どの程度成果が見込めるかなど、委員会として、自身の具休例を出して調査研究をしなければならぬ。

町長から

来年の第2回芸術祭は、島で1泊してもらう

作戦でどれくらいの効果が出るかのテストケースである。また、小豆島のフェリー代が少々高くても行きたいという要望があるかどうかというテストでもある。

委員から

備讃瀬戸を世界遺産に登録しようという提案したが、もう一度観光振興特別委員会でも議論いただき、委員自身も力を入れて交渉しながら、自然遺産の登録に向け活動したいとの提案があった。委員会では、この提案も一つの議題として継続して検討する。



高見山展望台から望むエンジェルロード



濱中幸三 議員

高校の統合

濱中 香川県から高校建設位置について何か連絡があったのか。塩田小豆島町長は新設高校を土庄町に建設することを了承しているか。

香川県が建設位置を発表する前に、現在の土庄高校の位置に新しい高校をつくるよう、町を挙げて強気に働きかけていくことを提案する。

町長 高校の建設位置は、現段階では具体的に示されていない。公共の交通機関を利用する場合、高校は現在の土庄高校跡地しか考えられない。今後県への説得を続ける。

濱中 塩田町長は、病院で譲歩してあげたのに、

この件に対して何も言わないのですか。県が発表する前に、町が音頭をとって、議会・地域が一緒になって、繰り返し香川県にお願ひしませんか。

町長 塩田町長は「高校の場所は、県の教育委員会へお任せしている。」と答弁している。

私は県の財政が逼迫している中で、新しい用地を購入するより既存の土庄高校でやりなさいと薦めている。塩田町長とも話し合いはしていきたい。

第6次総合計画

濱中 5次総合計画では多くの施策を実施してきたが、町の過疎高齢化、観光産業などの衰退に歯止めがかからない。6次計画では持続可能な行政運営を行うため、町の目標と方策を明確にするとしている。

しかし、現在の素案では目標がよくわからず、誰でもわかる明確な目標を掲げて、そこに10年かけて到達できるように

12月定例会 一般質問事項



上川正衛 議員

エコツーリズムへの行政としての関わり方

な計画が一番だと思う。計画では、土庄町がめざす将来像を「人・時を結び 自然とふれあう交流の都市(とし)」と定め、まちづくりの方向性(指針)は「見える町政、創ろう地域ブランド」としている。この将来像(目標)は、語感はいいが観光立町としての町の強い意志が見えない。また地域ブランドも見えない。

町の将来像は、だれもが共有できる分かりやすいもの、例えば「150万人をお接待する小豆島土庄町」。現在100万人の観光客を10年後には150万人に増やすなど。今までの尋常な方法では過疎高齢化に歯止めがかかる町づくりはできないと思う。

企画課長 総合計画は行政部門を広くカバーし、政策などを包括的・統合的・横断的に捉える総合的な性格を持つものである。今後基本計画において施策・事業を具体化していく。

商工観光課長 観光立町として本町が推進していく施策は、「小豆島エンジェルプロジェクト」として、滞在型観光の推進を目指し、テーマ型観光、参加・体験型観光、グルメ型観光という3部門に分けて施策を推進していく。

中でもエコツーリズムの理念とも合致する参加・体験型観光は、近年、チャレンジものなどの体験旅行などが注目されていて、小豆島の自然、パワースポットといわれる場所などを活用し、観光体験の企画・推進を図りたい。

今後、エコツーリズムの理念も踏まえて、観光客の誘致促進に積極的に取り組むたい。

上川 資源の掘り起こしは、異なった視点から光を当てることにより、そこには思わぬ宝物が見いだせる可能性が秘められているのではないだろうか。郷土土庄町は、遠く縄文の昔より先人達がこよなく愛し、喜び住んだ

美しい自然と豊かな人情と豊富な文化財に恵まれた町であり、貴重な史跡をはじめ、数々の文化財が保全、保護されている。町指定の建造物、絵画また彫刻、工芸品、有形民俗文化財、無形民俗文化財、天然記念物など、数多くある。こういうものがあるといふ事をもっともっと多くの人々に知ってもらい、それを利用する事を考えるべきと思うが。

商工観光課長 文化財活用の観点から見ても、地域に歴史的・文化的な資源になっている史跡や天然記念物を新たな観光地として魅力を創出することによって地域の活性化を図ることが出来るのではないか。

しかし、あとの維持管理の問題や費用対効果も含めて町の施策として、どれだけ重要性があるかなど関係各課と協議し、総合的に判断する必要がある。

放課後子ども教室について

山崎 9月議会で四海小学校の耐震化と旧図書館の工事に7千万円以上必要であるのであれば、新小学校横に放課後子ども教室の新設を提案したがその後の方向性は。

また、交通安全と便宜上、中央図書館横より伝法川の対岸に向って橋の新設を。

生涯学習課長 土庄町放課後子ども教室は、町内各地区の方々にボランティアの参画のもと、既存の施設を利用して子ども達を育むという教育的目的から、新しい小学校の横に放課後子ども教室を新設することは考えていない。

教育長 『放課後子ども教室は、地域の方々の参画のもと、今ある施設を利用して子ども達を育む』という趣旨になっている。私どもとしては、こういう趣旨に則ってやっつけていかざるを得ない現状にあるので、趣旨を十分ご理解いただきたい。



山崎勝義 議員

土庄町の老朽ため池の調査について

山崎 土庄町のため池は老朽ため池が多く、また、池の管理ができていなくなっているのが現状である。せめて貯水量5000t以上のため池調査を早急に行っていただきたい。

農林水産課長 町内のため池は、昭和53年度にすべてのため池の調査を行った。その後平成16年度に再度調査を行い、堤体・樋・洪水吐、それぞれについて、老朽状態を3段階に分けて調査している。5000t以上のため池は、蛙子池を含め23か所あり、そのなかで、県営事業、災害復旧事業などで整備されたため池は、11か所あり、現在整備中、あるいは整備計画のあるため池は7か所、残りの5か所も部分的に改修している池もある。このよつなため池は、以後調査点検をため池管理者と共に進めていきたい。

山崎 図書館に一番近い便利な場所にぜひ橋を。

建設課長 23年の11月の総務建設委員会の中でも、委員から『急がず検討していくべきだ』という意見が大半であった。少ない町の予算であり、まずは通学路の安全対策を検討していくべきと認識している。

土庄中央病院と内海病院の統合した小豆新病院を建設する計画について

山田 新病院建設場所や規模についての建設基本計画は、病院再編調査特別委員会などで報告されている。その中で、新病院の財政面での運営収支計画が全く表示されていない状況である。このような状態で事業を進行した場合、今後財政赤字に陥った場合どうするかという重要な問題点を十分検討すべきではないか。

土庄中央病院では今年5月半ばに先生が一人退職されただけで収益が大きく落ちこんだ。年間どのくらいのマイナスになり、どんな経営状態になるのか伺いたい。また、今後新病院が経



山田建之 議員

営赤字になればどう補填し、誰が責任を持つのか。病院運営はできるのか。

中央病院事務長 当病院の経営状況は、平成24年4月から7か月間の実績では、平成23年度同時期の損益計算書で対比すると純利益では37,742千円の減となっている。また、入院・外来患者数も大幅な減となっている。この患者数の減少の大きな要因は、整形外科が6月1日より2診制から1診制に変わった事があげられる。高齢者の患者が多数を占める当院で、整形外科は主要な診療科目であり、入院患者は全体の42.2%、外来患者では19.7%を占めている。

当院ではこの現状を重く受け止め、整形外科2診制を復活させるべく、香川医大・岡山大学・自治医大・県医務国保課に強く要請し、平成25年度は2診制で診療できるように、今以上経営状況が悪化しないよう、努力している。

町長 現在新病院建設は、順調に建物設計については進んでいる。医師確保とか運営に関することは、新しい病院管理者、院長となるべく候補者について現在香川大学から推薦をいただいた。この管理者などを含めてこれから収支の計画に入る予定で、基本計画が終わり3月中に収支計画の計算に入りたい。

山田 今後の収支計画書や専門家の意見を聞き十分比較、検討したい。また、土庄中央病院の再生、統合の方法を再検討するべきではないか。



福本耕太 議員

同和行政のあり方について

福本 同和問題のすみやかな解決を図る立場から、町がすすめる同和行政の問題点を質す。町は、同和地域に住む、一部の人たちが構成する民間団体（部落開放同盟）を公費で支え、同和行政の大部分をこの団体に委ねている。具体的には、事務所費、組織活動費、会議参加者への日当の支給、町各課をまたいで「人権」の名で部落開放同盟に活動の場を提供している。同和地域の中で、一部の人たちの主張と組織を特別視し、公的に扱うことは、同和地域全体に対し、旧来の差別とは別に「新たな偏見」を生じさせる事になる。個別の団体に対する助成は廃止

し、必要な施策は一般行政化する、同和教育は科学的見地から歴史教育の中に位置づけるべきだと考えるがいかがか。

町長 中身を精査しながら支援はしていく。

副町長 全て洗いざらいに情報を公開した中で対処していく事が課題である。

住民のくらしを壊し、町財政の未来を閉ざす国保税値上げは止めるべき

福本 町は、来年4月からの国保税の値上げを住民に求めているが、6か月連続の景気後退と所得減少、消費税増税が控える下で、町民のくらしと地域経済、町財政をどのように考えているのか。現状の国保世帯の税負担は、年間所得の1割をはるかに越え、国保世帯は、長期にわたり過重負担を負っている。負担に耐えかね、滞納する世帯の率は増え続けている。地域経済が悪化する下で、税

負担を上げれば、地域経済はさらに冷え込み、住民生活はさらに悪化、滞納が増えて、税収も減少する。悪循環である。岡田町長は安易に増税と言いが悪循環を止める策をどう考えているのか。

町長 国保被保険者に後期高齢者支援分をご負担いただくという主旨をご理解いただきたい。

町内で、通所リハビリテーションの設置を

福本 現在、わが町では、介護保険型通所リハビリを受けられる施設がない。退院後の回復期に続けられるリハビリ施設の設置を求める。

中央病院事務長 現在の中央病院では介護保険制度適用の看護基準・施設基準が満たせない状態である。

健康増進課長 施設の設置には医師、理学療法士などのスタッフが必要であり、別のリハビリ施設を整備することは難しい。

議会 日誌

11/1~1/31

11月	12月	1月
16日 水道事業特別委員会	3日 全員協議会	15日 議会広報特別委員会
26日 総務建設常任委員会	4日 観光振興特別委員会	15日 新小学校調査特別委員会
30日 教育民生常任委員会	4日 病院再編調査特別委員会	21日 議会広報特別委員会(視察)
	11日 (広域行政事務組合協議会)	29日 観光振興特別委員会
	12日 議会運営委員会	30日 水道事業特別委員会
	12日 全員協議会	
	12日 総務建設常任委員会	
	19日 12月定例会	
	19日 水道事業特別委員会	

議会の生の声を聞いてみませんか!

次回定例会

3月上旬からの予定です

詳しくは議会事務局へ TEL62-7011

編集後記

▼最新鋭のボーイング787型機の数々の故障報道が伝えられている。

▼タブレット端末の世界競争の中で米グーグル社の基本ソフトを搭載した台湾のエイサーがアップル社を抜き初めてトップになった。

▼安倍総理はベトナム訪問で原発計画に引き続き協力をしていく、また446億円の円借款を供与する意向を表明する。これも中国の海洋進出を念頭に置いたものなのか。

▼ところでこの季節厄払い、節分である。本来は立春、立夏、立秋、立冬の前日のことをさすらしい。しかし旧暦では立春が年の始まりにあたることから、いつの頃からか立春の前日をさすようになり、立春を新年と考えれば、節分は大晦日。ゆえに節分の日に邪気を祓い、新年を幸せ多き年として迎えるようになったと伝えられている。

《満夫 記》